

ーじろ　　金子みすゞ

お母さまは、
大人で大きいけれど、
お母さまの
おエプロンは小さい。
だって、お母さまは言いました。
小さい私でいっぱいだって。
私は子どもで
小さいけれど。
小さい私の
心は大きい。
だって、大きいお母さまで、
まだいっぱいにならないうで、
いろんな事を想うから。

5月、母の日の集いが行われ、お母さんとふれ合う子どもたち、子どもたちとふれ合うお母さんはとても嬉しそうに笑顔。幸せな時間が流れました。

その幸せな時間とは裏腹に、戦禍にある国では犠牲になる子どもたちもおり、日本国内でも子どもが巻き込まれる事件や事故も多く報道され、また虐待の相談数も年々増えています。

本来、母の愛は、神さまの愛(無償の愛)に一番近いと言われます。

みすゞさんのお母さんの心の中は、みすゞさんのことであらう。みすゞさんはお母さんのことが大好きでした。

みすゞさんの詩には、「お母さん」が出て来る詩がいくつかあります。

「私の髪の」の詩の中では、髪の毛が光ること、エプロンが白いことはお母さんのおかげだと言っています。

きっと、お母さんはいつもみすゞさんの頭をなでながら「いい子だね」と言っていたに違いありません。

みすゞさんは、鼻が低いことや色が黒いことは、お母さんに似ているから…ということではなく、楽しい気持ちに変えて歌っています。

みすゞさんを見つけ出してくださり、この世に知らせた矢崎節夫先生は、みすゞさんは辛いことがあっても、嬉しいことに変えていく「うれしさ飛ばし」の上手な人だと言っています。

何か嫌なことがあったり、言われたりしたとき、みすゞさんのように楽しく変えていけると素晴らしいですね。

想いは飛びます。

嬉しい気持ち、人を想う気持ち、よいことを飛ばし続けることで、みんながそうになっていくのではないのでしょうか… 私たちもまた、まずは身近なことから《いい想い》を飛ばしたいものです。

私の髪の　　金子みすゞ

私の髪が光るのは
いつもお母さま、撫でるから、
私のお鼻の低いのは、
いつも私が鳴らすから。
私のおエプロンの白いのは、
いつもお母さま、洗うから。
私のお色の黒いのは、
わたしが煎豆たべたから。

